

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	イタチガ沢最終処分場整備事業	会計	一般会計	事業No.	340	施策順No.	56-005	
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-2-2-12-1			
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課			
施策	56 廃棄物の減量と適正処理			事業期間	開始	13	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象 誰、何に	イタチガ沢最終処分場						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
		具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		計画埋立処分容量(?)	159642	167548	172831	172831	172831	
	埋立地総面積(m ²)			11987	11987	11987		
	意図	適正に整備される						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	適正な埋立容量(?)	159642	167548	172831	172831	172831	172831	A
	整備する処分場埋立地の総面積(m ²)			11987	11987	11987	11987	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	場内整備、周辺環境整備について、地元協議に基づき実施した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	イタチガ沢最終処分場を安定した状態に保つための整備を行う 幹線市道(集落間の相互連絡の主たる道路)2-69号線萩の平線の拡幅改良工事ならびに周辺関連整備を行う 処分場終了閉鎖に伴う周辺関連整備を行う <参考>H22年度 細々目名:旧最終処分場整備事業費		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 最終処分場閉鎖に伴うの場内整備ならびに周辺関連整備(21→22明許繰越施工) (1)最終覆土工事 (2)場内整備(作業道等整備) H22施工 (3)場内整備(排水路、処分場管理棟解体等を含む) 2 市道萩の平線の舗装工事ならびに周辺整備(21→22明許繰越施工を含む) 3 土取り場の整備 (1)土取り場区画整備 (2)換地(測量、登記)	1 (1)覆土量 (2)施工延長 (3)施工延長 2 施工延長 3 (1)整備面積 (2)換地地区	1 (1)V=12,800? (2)L=231m (3)L=142m 2 L=829m 3 (1)A=1.0ha (2)1地区
	23年度実施計画	1 施工延長 2 (1)整備面積 (2)換地地区	1 L=135m 2 (1)A=1.0ha (2)1地区

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	25,026	25,032		特定財源内訳、補足事項	21→22明許繰越 旧最終処分場整備費 一般財源	14,994千円
	起債	県支出金					22 旧最終処分場整備費 一般財源	12,369
		その他	15,000	14,994			21→22明許繰越 旧処分場整備事業費 きめ細交付金	22,490
		一般財源	12,600	12,369	22,400		" 最終処分場管理費 きめ細交付金の流用	2,542
		計 (A)	52,626	52,395	22,400		計	52,395
正規職員所要時間			500					
臨時職員等所要時間								
人件費計 (B)			1,788					
トータルコスト A+B			54,183					

4 事業に対する市民や議会の意見

・処分場地元住民と周辺環境整備の要望を含めた協定の履行が求められている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	適正に処理・リサイクルされる	施策の成果指標又はムトス指標	ごみの収集量
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	平成21年3月31日をもって、イタチガ沢最終処分場は閉鎖し、市内の一般家庭系埋立ごみは、4月1日以降新処分場への搬入となった。最終覆土とともに場内整備を行い、地元対策委員会との協定事項について、周辺整備を実施し、適正処理の促進に貢献した。		
	後期に向けた課題	場内整備は、旧最終処分場管理事業に移行し、地元協定事項の周辺整備は、平成23年度をもって完了する。跡地利用及び廃止が課題となる。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	地元対策委員会との協議を密に行う。		
	後期に向けた課題	事業の円満な終了。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	低コスト設計及び施工。		
	後期に向けた課題	事業の円満な終了。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	地元における、処分場施設受け入れから長期埋立期間における地元調整、環境整備、美化ほかの地元実施。市は全面的に関与し、地元と良好な関係を保てた。		
	後期に向けた課題	跡地利用に関する地元調整、検討協議。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①主体 地元ゴミ対策委員会(龍江地域づくり委員会、龍江1区対策委員、上城地区、近隣関係者、市議会議員、飯田市関係部課で組織) 役割 処分場運営、周辺整備協定事項について、関係者との調整を行っていただいた。 ②働きかけ 地元対策委員会とともに現地調査等を密に行い、状況把握及び情報の共有と、協定実施事項の順次実施と確認。		
	後期に向けた課題	①主体 地元対策委員会 役割 跡地利用に関する地元調整。 ②働きかけ 地元対策委員会とともに跡地利用の検討協議。		
全体を通じて	4年間の振り返り	地元対策委員会と協議を重ねながら事業を実施したことにより、処分場運営、周辺整備については、大きな支障なく、平成23年度をもって、事業終了見込みとなっている。		
	後期に向けた課題	処分場の跡地利用及び廃止。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------